

2025 年度
高岡市民病院初期臨床研修プログラム

高岡市民病院

目次

1. プログラムの概要	1
2. 臨床研修の到達目標	10
3. 診療科等の研修内容・概要	14
4. 指導医師一覧	32

1. プログラムの概要

1. 高岡市民病院初期臨床研修プログラムの概要

I. プログラムの目的

プライマリ・ケア（一般的に多く遭遇する疾患の診療、二次救命処置）に必要な基本的な診察能力の習得に重点を置きつつ、将来進むべき科への一定の道筋をつける。また、患者本位の診療を目指し、患者及びその家族と十分な信頼関係のもとに診療を行える能力の習得を目指す。

II. プログラムの特徴

1. プライマリ・ケア（一般的に多く遭遇する疾患の診療、二次救命処置）の習得に重点を置くものであること。
2. 研修医の自主性、主体性を尊重するシステムとしていること。

III. プログラムの研修施設

1. 基幹型臨床研修病院

高岡市民病院	富山県高岡市宝町4番1号
--------	--------------

2. 協力型臨床研修病院

富山県立中央病院	富山県富山市西長江二丁目2番78号
富山大学附属病院	富山県富山市杉谷2630番地
厚生連高岡病院	富山県高岡市永楽町5番10号
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢大学附属病院	石川県金沢市宝町13番1号
南砺市民病院	富山県南砺市井波938番地
公立宇出津総合病院	石川県鳳珠郡能登町字宇出津夕字97番地
市立輪島病院	石川県輪島市山岸町は1番1地

3. 臨床研修協力施設

独立行政法人国立病院機構北陸病院	富山県南砺市信末5963
富山県高岡厚生センター	富山県高岡市赤祖父211番地
医療法人社団高陵クリニック	富山県高岡市野村23-1
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院	富山県高岡市伏木古府元町8-5
飛騨市民病院	岐阜県飛騨市神岡町東町725番地
もり内科クリニック	射水市新開発393-4

IV. プログラムの管理

1. プログラム責任者 担当局長 堀川 直樹
2. 副プログラム責任者 皮膚科部長 森 直哉
3. 臨床研修管理委員会 委員長 担当局長 中谷 敦子

V. プログラムの原則

1. 必修科目の研修期間は内科 24 週、救急 12 週（麻醉科で 4 週研修することも可能）、地域医療 4 週、外科 4 週、小児科 4 週、産婦人科 4 週、精神科 4 週、一般外来 4 週（内科、外科、小児科で並行研修することも可能）とする。
2. 内科系必修科目は循環器・腎臓・内分泌・消化器・脳神経内科から選択する。
3. 救急は、救急外来・集中治療室にて初期救急医療を研修する。また、希望者は協力病院の厚生連高岡病院または富山県立中央病院（2 年次のみ）で 4 週の研修を行うことができる。なお、救急当直体制について、救急部門研修は、まとまった期間とは別に月 4 回程度行う。
4. 地域医療は南砺市民病院、飛騨市民病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、JCHO 高岡ふしき病院（地域病院）、高陵クリニック（診療所）、もり内科クリニック（診療所）で研修を行い、一般外来での研修と在宅医療の研修を行う。
5. 必修科目の外科は、外科・整形外科・泌尿器科から選択する。
6. 必修科目の小児科は、高岡市民病院または富山大学附属病院で研修を行う。
7. 必修科目の産婦人科は富山大学附属病院で研修を行う。
8. 1 年次に選択しなかった必修科目については、将来の希望に応じて 2 年次に選択することができる。
9. 選択科目は研修医の将来のキャリアにつながる多様なプログラムを作成する。
以下の科目を選択することができる。
内科（内分泌・腎・循環器）、脳神経内科、消化器内科、麻醉科、外科、整形外科、小児科、産婦人科（婦人科領域）、精神神経科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、緩和ケア内科
10. 院外研修として、大学病院（金沢大学、富山大学、金沢医科大学）、独立行政法人国立病院機構北陸病院（精神科）、飛騨市民病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院で 40 週までの院外研修が可能である。ただし、救急の院外研修を含め、40 週までとする。
11. 研修科目のローテーションスケジュールは事務局で調整する。
12. 剖検例の C P C は年間 5 回行っており、研修医は C P C に参加し研修を行う。
13. 保健・医療行政は、高岡市民病院及び富山県高岡厚生センターで研修を行う。

臨床研修スケジュール【例】

○ローテーションの例

週	1～4	5～8	9～12	13～16	17～20	21～24	25～28	29～32	33～36	37～40	41～44	45～48	49～52
1年次		内科		救急	精神科	麻醉科	内科	救急	産婦人科	内科	外科	小児科	
	← 一般外来を並行研修 →									← 一般外来を並行研修 →			
2年次		選択(院外研修 40週可能)				地域医療			選択(院外研修 40週可能)				
	← 院外研修 40週可能 →												

VI. プログラムの定員

1. 本院臨床研修プログラムの定員は1年次、2年次それぞれ4名とする。

VII. 研修の指導体制

A. 研修・指導体制

1. 研修医、上級医、指導医でチームを組み診療にあたる。
2. チームは一定期間を固定して活動する。
3. チームの指導は責任を持って指導医が行う。

B. 指導医の要件

1. 臨床経験7年以上である。
2. それぞれの分野で十分な指導力を有する常勤医である。
3. 指導・教育方法についての講習会を受講している。

C. 指導医の役割

1. 主治医として患者の診療にあたり、研修医、上級医の診療行為を監督・指導する。
2. 研修医が記載した診療録や指示書、退院サマリーを検閲し承認を行う。
3. 研修医の研修内容の評価を行う。
4. 医療の安全に十分に配慮する。
5. 研修医の健康状態に配慮する。

D. 上級医の要件

1. 初期臨床研修修了者である。

E. 上級医の役割

1. 研修医とともに診療を行い、指導医の役割を補助する。
2. チームカンファレンスに参加する。

VIII. 研修医の募集方法

1. 募集要項、募集日程は別に示す。
2. 医師臨床研修マッチングに参加する。
3. 試験等にて応募者の採用順位を決定する。
4. 採用確定後、研修スケジュールの調整を行う
5. マッチングで定員に達しない場合は、マッチング以外の方法で募集する。

IX. 処遇

1. 身分 臨時医師（会計年度任用職員）
2. 基本給 1年次 月額486,800円
2年次 月額498,300円
※賞与有、通勤手当、超過勤務手当は別途支給
3. 勤務時間 8時30分～17時15分（休憩時間12:00～13:00）
4. 時間外勤務 有
5. 休暇 有給休暇（1年次：10日、2年次：11日）、年末年始休暇、夏季休暇
6. 当直 月4回
7. 研修医室 有（2室）
8. 宿舎 無（病院契約の賃貸借住宅 病院負担限度月額40,000円）
9. 社会保険等 健康保険、厚生年金、雇用保険、労働者災害補償保険
※採用から6か月後に退職手当の支給対象（雇用保険非加入）となり、
1年後には市町村職員共済組合に加入
10. 健康管理 健康診断：年1回
11. 医師賠償責任保険 病院賠償責任保険に加入。個人加入は任意。（院外研修時は個人で加入）
12. 外部研修活動 学会・研究会等への参加：可、参加費・交通費支給：有（年2回まで）
13. その他 初期臨床研修中に研修以外で診療してはいけない。
いわゆるアルバイト診療をしてはいけない。

X. プログラムに含まれる病院・施設の研修科目一覧

○研修科目一覧

	必修科目	選択科目
高岡市民病院	内科（内分泌・腎・循環器）、消化器内科、脳神経内科、救急（麻酔科）、外科、整形外科、泌尿器科、精神神経科、小児科、一般外来、地域医療	内科（内分泌・腎・循環器）、消化器内科、麻酔科、外科、整形外科、小児科、産婦人科（婦人科領域）、精神神経科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、緩和ケア内科

○協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設 研修科目一覧

病院・施設名	科目	研修実施責任者
金沢大学 附属病院 (選択科目)	消化器内科，内分泌・代謝内科，リウマチ・膠原病内科，呼吸器内科，循環器内科，腎臓内科，血液内科，神経内科，神経科精神科，小児科，放射線科，皮膚科，漢方医学科，心臓血管外科，呼吸器外科，消化管外科，肝胆膵・移植外科，内分泌・総合外科，乳腺科，整形外科，脊椎・脊髄外科，泌尿器科，眼科，耳鼻咽喉科・頭頸部外科，産科婦人科，麻酔科蘇生科，脳神経外科，核医学診療科，歯科口腔外科，検査部，リハビリテーション科，救急部，集中治療部，病理部/病理診断科，血液浄化療法部，輸血部，がん高度先進治療センター	耳鼻咽喉科 教授 吉崎 智一
富山大学 附属病院 (必修科目)	小児科、産科婦人科	眼科 教授 林 篤志
富山大学 附属病院 (選択科目)	内科、精神科、神経科（神経内科）、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、産科婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、呼吸器内科、漢方内科、循環器内科、救急科、消化器内科、感染症内科、病理診断科、放射線診断科・放射線治療科	眼科 教授 林 篤志
金沢医科 大学病院 (選択科目)	消化器内科、肝胆膵内科、循環器内科・心血管カテーテル治療科、呼吸器内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ膠原病科、神経内科、腫瘍内科、高齢医学科、小児科（小児循環器内科を含む）、神経精神科、皮膚科、放射線科・放射線治療科、健康管理センター、脳神経外科、心臓血管外科（小児心臓血管外科を含む）・末梢血管外科、呼吸器外科、一般・消化器外科・乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部・甲状腺外科泌尿器科、産婦人科、麻酔科、救命救急科、消化器内視鏡科、感染症科、リハビリテーション医学科、病理診断科、総合診療センター・女性総合医療センター	血液・リウマチ 膠原病科 教授 正木 康史

厚生連 高岡病院	救急	院長 柴田 和彦
富山県立 中央病院	救急	内科部長 音羽 勘一
南砺市民病院	地域医療	院長 清水 幸裕
公立宇出津 総合病院	地域医療	院長 野島 直巳
市立輪島病院	地域医療	院長 品川 誠
飛騨市民病院	地域医療	院長 黒木 嘉人
医療法人社団 高陵クリニック	地域医療	院長 遠山 龍彦
独立行政法人 地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院	地域医療	院長 高嶋 修太郎
もり内科 クリニック	地域医療	院長 森 俊介
富山県高岡 厚生センター	保健・医療行政	所長 松倉 知晴
独立行政法人 国立病院機構 北陸病院	精神科	統括診療部長 白石 潤

XI. 評価方法

○研修医の評価

1. 目標到達度の評価は、項目により自己評価のみでなく指導医及び看護師などの医師以外の医療職が研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価を行い、研修医に対して年2回フィードバックを行う。
2. 経験目標は規定数の症例のレポートを提出する。
3. 経験目標の症例の経験度は指導医が評価する。
4. 研修期間を通じた評価についてはプログラム責任者が行い、最終的な評価を研修管理委員会が行う。

○研修プログラムの評価

1. 毎年、臨床研修管理委員会において指導医や研修医の意見を基に評価を行う。

XI. 修了認定

1. 研修実施期間の評価

研修期間（２年間）を通じた休止期間の上限の90日（当院において定める休日は含めない）を超えていないこと。

2. 臨床研修の到達目標（臨床医としての適性を除く）の達成度の評価

各到達目標について、達成度判定票を用いて、達成したか否かの評価を行い、少なくともすべての必修項目について目標を達成していること。

3. 臨床医としての適性の評価

臨床医として適性を評価し、安心、安全な医療の提供が可能であり、法令・規則を遵守できること。

1～3を確認したのち、病院長及び臨床研修管理委員会委員長が臨床研修の修了を認定し、臨床研修修了証を授与する。

XIII. 施設概要

施設名：高岡市民病院

所在地：富山県高岡市宝町4番1号

電話：0766 (23) 0204

FAX：0766 (26) 2882

ホームページ：<https://www.med-takaoka.jp/>

メール：hospitaljim@city.takaoka.lg.jp

病院長：福島 亘

病床数：373床（一般305床、結核12床、精神50床、感染症6床）

診療科：内科、循環器科、リウマチ科、精神神経科、脳神経内科、消化器内科、小児科、外科、
整形外科、形成外科、脳神経外科、胸部・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科・核医学科、歯科口腔外科、
麻酔科・集中治療科、病理診断科、緩和ケア内科

医療機関指定・認定：保険医療機関

労災保険指定医療機関

労災保険二次健診等給付医療機関

地域がん診療連携拠点病院

生活保護法指定医療機関

指定養育医療機関

指定療育医療機関

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療 腎臓）

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療 整形外科）

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療 眼科）

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療 耳鼻咽喉科）

指定自立支援医療機関（精神通院医療）

指定自立支援医療機関（心臓脈管外科）

第二種感染症指定医療機関（感染症病床・結核病床）

原子爆弾被爆者一般疾病指定病院

特定疾患治療研究受託病院

小児慢性疾患治療研究受託病院

児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定施設

健康増進法第21条第1項の規定に基づく指定施設

厚生労働省臨床研修指定病院（基幹型・協力型）

母体保護法指定医

身体障害者福祉法指定医

難病医療協力病院（富山県）

難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関

教育認定施設：日本内科学会認定医制度教育病院（内科専門研修プログラム基幹病院）

日本リウマチ学会教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱ

日本糖尿病学会教育関連施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本透析医学会専門医制度教育関連施設

日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設

日本神経学会専門医制度准教育施設

日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本肝臓学会特別連携施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本乳癌学会専門医制度認定施設

日本大腸肛門病学会認定施設

呼吸器外科専門医合同委員会関連施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設

日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本麻酔科学会麻酔科認定病院

日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設

日本臨床細胞学会教育研修施設

日本病理学会研修認定施設B

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本静脈経腸栄養学会（NST）栄養サポートチーム稼働施設

日本女性医学学会認定研修施設

日本緩和医療学会認定研修施設

2. 臨床研修の到達目標

2. 臨床研修の到達目標

到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29 症候）

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26 疾病・病態）

※ 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

その他の研修活動

感染予防（院内感染や性感染症等）、予防医療（予防接種を含む）、虐待対応、社会復帰支援、緩和ケア、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、CPC（臨床病理研修会）等の基本的な分野・領域に関する研修を含むこと。

児童精神、薬剤耐性、ゲノム医療等、社会的要請の強い分野・領域の研修や、診療領域・職種横断的なチーム（感染制御チーム、緩和ケアチーム、認知症ケアチーム、退院支援チーム等）、の活動に参加することが望ましい。

また、CPC（臨床病理検討会）レポートや診断書（通常診断書、死亡診断書）を提出すること。

3. 診療科等の研修内容・概要

研修科目：内科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：

1. 医師としての基本的価値観を身に付け、基本的診療業務を理解する。
2. 日常多く遭遇する内科疾患の基本的な診療と救急対応ができるようになる。
3. 内科サブスペシャリティー領域の診療の概要を理解する。

担当科：内科（循環器・腎臓・内分泌）、消化器内科、脳神経内科

指導原則・方法：

1. 指導医・上級医とともに入院患者を受け持ち、診療にあたる。
2. 指導医・上級医の外来で、診療補助・検査補助を行う。
3. 段階を踏んで一般外来研修を行い、指導医・上級医と共に振り返りを行う。
4. 各内科サブスペシャリティー領域の特殊検査・手技の見学・補助・実施を行う。
5. 各科で定められた症例検討会・カンファレンス・回診に参加し、症例提示を行う。
6. 指導医・上級医とともに日中の内科系の救急診療を行う。
7. 日々の診療録の記載（退院時要約を含む）を記載し、指導医・上級医の指導を受ける。各種診断書（死亡診断書を含む）の作成を経験する。
8. 臨床病理カンファレンス（CPC）での症例提示を1例行う。

週間スケジュール：消化器内科の例（担当科によりスケジュールは異なります）

	午前		午後	
月	病棟回診	内視鏡検査	内科系救急診療	*1
火	病棟回診	外来研修	検査・処置 / 病棟業務	
水	病棟回診	内視鏡検査	内科系救急診療	
木	病棟回診	エコー検査	検査・処置 / 病棟業務	*2
金	病棟回診	内視鏡検査	検査・処置 / 病棟業務	*3

*1：症例カンファレンス

*2：多職種病棟カンファレンス

*3：多職種外来カンファレンス（月1回）

研修責任者からのメッセージ：

内科的な知識や思考法、診療の基本技能は、将来何科に進もうとも医師としての基本になると思います。内科領域のコモンディーズから救急疾患・各領域の専門的疾患まで幅広い疾患の基礎的知識や診断・治療のプロセス、および検査手技を指導医・上級医とともに学び、医師としての基盤を形成してください。

また、患者を支えるチーム医療や地域医療における病院の役割を理解し、院内外の多職種連携についても学んでいただければと思います。

研修科目：救急

カテゴリー：必修科目

一般目標：様々な救急患者を全身的に観察し、検査や治療の優先順位を判断でき、蘇生に必要な知識、技術を習得し、さらに入院した後も集中治療を施すことができる臨床医に必要な基本的な知識、技能および態度の習得を目的とする。

指導原則・方法：

1. 研修期間中、指導医の指導下に救急患者を担当し、さらに集中治療を必要とする患者の治療に専念する。
2. 毎日朝に行われる症例毎のカンファレンスに発表、参加する。
3. 毎月開催される救急・集中治療合同カンファレンスで発表、参加する。
4. 月から金の当直を適宜行い、緊急患者の症例を数多く経験する。
5. そのつど、Advanced Cardiovascular Life Support (ACLS)コース、Japan Advanced Trauma Evaluation and Care (JATEC)などの標準教育プログラムを積極的に取り入れた講義を行う。

週間スケジュール：

曜日・時間	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
月	症例検討会 集中治療室回診	救急外来 集中治療									
火											
水											
木											
金											

研修責任者からのメッセージ：

救急車で搬送される内因系・外因系疾患の初期診療が研修できる他、所属科によっては、その後継続的に集中治療室にて治療を担当することができます。様々な症例を経験する中で、救急医療に必要な基本的な知識、技術および態度を指導医が教育・指導します。

救急患者は2次救急、他院からの紹介患者を中心にあたります。中等症患者に関しては、初療をおこない各当該科に患者を引き継いでいくものの、多発外傷、他臓器不全、急性中毒、環境障害などは継続的にICUにて治療にあたっています。救急患者はいつ搬送されるか分からない、やる気次第で相当数の救急症例を経験することができます。

研修科目：麻酔科

カテゴリー：選択科目（4週を上限として、救急の必修科目に充てることができる。）

一般目標：患者の安全を守り、痛みを和らげるという麻酔医の責務を修得するために、手術患者の術中麻酔管理を中心とした周術期管理を通して、特に循環・呼吸・疼痛管理についての知識を整理し、周術期管理に必要な手技（動脈カニューレーション、中心静脈確保、硬膜外カテーテル留置、脊髄麻酔の実施など）を習得する。また、ペインクリニックでは、神経ブロックなどの手技を見学し、また緩和・終末期医療のWHO方式によるがん性疼痛の管理を理解できるようにする。

指導原則・方法：

1. 指導医（上級医）の指導下に、手術麻酔・全身管理を担当する。術前診察・術後ラウンドを行い、周術期における患者の全身管理を理解する。
2. 毎日朝8時30分に行われる術前症例カンファレンスに参加する。

週間スケジュール：

曜日・時間	8：30	9	10	11	12	13	14	15	16	17：15
月	症例検討会 集中治療室回診 術後回診	手術麻酔				手術麻酔				
火										
水										
木										
金										

研修責任者からのメッセージ：

できるだけ多くの経験をできるようにその日の麻酔症例により複数の指導医の下で研修していただきます。

指導医と共に全身麻酔、脊椎麻酔、神経ブロックなどの基本的な管理法を学びます。

末梢点滴確保はもちろん、気道確保や気管内挿管、中心静脈カテーテル挿入の手技等を行います。

麻酔を通して全身管理、呼吸管理、循環管理、輸液などについての理解を深めます。

同時に様々な手術を見ることができ、各科の手術に対する認識を深めることも可能です。

研修科目：外科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：基本的な外科疾患に対する術前診断、術前管理、手術、術後管理の実際を習得しながら、基本的診療能力を身につけることを目標に研修する。

指導原則・方法：

1. 指導医あるいは上級医とともに入院患者を受け持ち、術前診断、術前管理、手術、術後管理を一連のものとして捉え、患者との継続的なコミュニケーションを経験し、臨床医としていかに患者と接していくかを学ぶ。
2. カンファレンスでは、術前診断、予定手術およびそのリスクや治療効果などの評価、術後合併症とその原因および治療法、最近のトピックスなどを勉強する。
3. 外科（消化器）、胃、大腸などの消化管造影や内視鏡検査、さらには肝・胆・膵疾患に対するERCPやPTCD等、検査の介助を務めながら、基本的な消化器疾患に対する画像診断の特徴について理解を深める。
4. 外科（内分泌）では、乳腺および甲状腺の視触診手技を習得する。また、乳腺レントゲン写真（マンモグラム）、乳腺・甲状腺超音波検査などの画像診断について実際に学ぶ。さらに、穿刺吸引細胞診や針生検検査の介助を務めながら、病理学的検査についても理解を深める。
5. 外科（小児科外科）では、新生児や乳幼児における診察法・検査法・治療法の特異性を、日常診療を通じて学ぶ。
6. 胸部血管外科では、肺や縦隔病変・血管病変の診断と治療の基本手技、基本的な手術手技と術後管理の習得を目的とし、その理解を深める。

週間スケジュール：

1. 所属する外科のスケジュールにあわせて回診ならびにカンファレンスに参加する。
2. 所属する科の手術日は、原則として手術に参加する。
3. 空いている時間には、できるだけ各外科で行われるサブスペシャリティーのカンファレンスに参加する。

1日のタイムスケジュール（月曜日から金曜日まで）	
8：30	症例カンファレンス
8：45	病棟研修
9：30	病棟廻診
10：30	外来研修
12：00	昼食
13：00	手術
17：00	術後管理、摘出標本の整理

研修責任者からのメッセージ：

外科の研修期間中に、各外科疾患の基本的な疾患に対する診療能力を身に付けていただき、また一方で、外科系疾患の治療に特有な患者さんの心理などもあわせて学んでもらいたい。

研修科目：整形外科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：整形外科医としてのみならず一般臨床医としての基本的な知識、技能、態度を身に付ける。脊椎・関節疾患の診療に必要な知識、技能を学ぶ。災害外傷、交通外傷などの緊急を要する疾患の初期治療の臨床的能力を身に付ける。高齢化社会に対応した脊椎・関節疾患患者の診療に関する臨床的能力を身に付ける。術後のリハビリテーション、日常生活への復帰、Quality of Life に対する理解を深める。

指導原則・方法：

1. 病棟で、指導医とともに数人の患者を受け持つ。
入院時に問診、身体所見を指導医とともにとり、検査治療計画をたてる。
病棟における回診、診察、治療を指導医とともに行う。
手術計画を立て、術前カンファレンスで、発表・討論を行い、手術に助手として入る。
術後の管理を行う。
2. 週2回程度外来に出て、新患の問診を行う。その後、指導医の診察につき、外来患者の診断、治療、処置を学ぶ。
3. 学術集会で臨床発表を行う。北陸整形外科集談会などにおいて、症例報告等を行う。

週間スケジュール：

曜日・時間	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月		病棟				手術		スポーツ外来			
火		外来				手術					
水		病棟				手術					
木		外来				手術					
金		病棟				手術					

研修責任者からのメッセージ：

研修を通して、外傷医としての基本的対応、プライマリーケアを習得できます。さらに、手術では脊椎・関節疾患に対する高度先進技術について学び、実際に手術などに参加することが可能な施設・指導医がそろっています。

研修科目：小児科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：日常診療における病歴聴取、診察（理学所見）、鑑別疾患（検査など）、初期治療といった基本的な内科的診療技術の習得を目指す。しかし、小児科診療においては、下記に示すような特徴があり、こういった特徴をよく理解し、小児プライマリーケアの基本を身に付けてもらうことを目標とする。

1. “保護者”という第三者が常に患者の間に存在している。
2. 子供は、常に成長・発達していくもので、その成長・発達をよく理解する必要がある。
3. 年齢・時期によって出現する疾患やその病態生理は異なり、治療内容や投薬量なども違ってくることを理解する。

指導原則・方法：

1. 小児科病棟の患者を担当し、同病棟の医療スタッフとして診療にあたる。ただし、重症の白血病など、あまりに専門的な病態の患児は受け持たず、プライマリーケアを中心に、基本的な疾患の診療にあたる。
2. 小児科一般（初診・再診）外来はもちろんのこと、各専門外来（午後も含む）にも参加し、診療補助・検査補助を行う。
3. 月に数回の日直・当直を行う。時間外のポピュラーな小児疾患を経験する。月に1回ある開業医との合同小児科症例検討会に参加する。

週間スケジュール：

曜日・時間	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月	病棟（外来）					病棟				
火	病棟（外来）					病棟・予防接種				
水	病棟（外来）					病棟・心エコー				
木	病棟（外来）					乳幼児健診				
金	病棟（外来）					病棟				

※富山大学附属病院において小児科の研修を行う場合は、指導原則・方法、研修スケジュールなどは富山大学附属病院の卒後臨床研修プログラムに準ずるものとする。

研修責任者からのメッセージ：

感染症を中心に、基本的な小児疾患をできるだけ多く受け持ち、小児の診療に慣れてほしいと思います。そして、小児科以外の専門分野に進んでも、小児患者を含めた **primary care** が遂行できるような医師になることを期待します。

研 修 科 目：産婦人科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一 般 目 標：産婦人科疾患に対し、正確な診断を下し、適切な治療を想定できる医師となるため、様々な産婦人科疾患の診療経験を積む。産婦人科医への紹介が必要な時はその判断ができるようになることが最低限の目標である。分娩に関して正常分娩、異常分娩、帝王切開分娩を数多く経験することを目標とする。

※必修科目・選択科目の産婦人科研修は富山大学附属病院で行う。

指導原則・方法、研修スケジュールなどは富山大学附属病院の卒後臨床研修プログラムに準ずるものとする。

※産婦人科の婦人科領域は選択科目として高岡市民病院で研修を行うことができる。

研修科目：精神科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：

- ・精神医学の思考法を身につける。
- ・精神保健・医療を必要とする患者とその家族への外来、リエゾンでの対応を学ぶ。
- ・急性期精神疾患の入院及び治療を経験する。
- ・サービス導入や行政との連携などの包括的な患者支援について学ぶ。

指導原則・方法：

1. 精神科外来にて指導医とともに初診患者の診療を行う(予診および陪診)。
2. 他科からのコンサルテーション(リエゾン)に対し、指導医とともに診察を行う。
3. 入院患者を数名受け持ち、指導医とともに治療にあたる。
4. 外来診療や退院調整においてサービス等の調整を要する場合は指導医とともに計画を策定する。
5. 毎週行われる病棟カンファレンスに参加し、担当患者の症例提示を行う。

週間スケジュール：

【午前】 外来初診。予診および陪診。

新規外来患者数名について予診を担当いただき、その内容をまとめた上で指導医に報告、相談し、その後指導医の本診に同席します。

【午後】 病棟回診、指導医とのディスカッション。

受け持ちの入院患者について単独で、もしくは指導医とともに回診を行い、治療方針について指導医とディスカッションを行います。病状説明がある場合は同席し、もしくは主体的に説明を行っていただきます。

【随時】 他科からのコンサルテーション（リエゾン）への対応。

病棟でのせん妄や救急での自殺企図など、他科から相談があった場合に指導医とともに診察に向かい、対応を協議します。

※ 毎週月曜 15時から病棟カンファレンス（新規入院患者紹介等）があります。受け持ち患者についての簡単な症例提示を行います。

研修責任者からのメッセージ：

市立病院である当院は急性期の精神科病棟を有し、また当科には多くの診療科からのリエゾンがあります。認知症も含めた精神疾患は増加の一途を辿っており、いずれの科においても精神疾患と無縁に日常診療を行っていくことはほぼ不可能な時代となっています。

当科での研修を通して精神医学の考え方を身につけるとともにリエゾンの実際を学んでいただき、今後の診療に役立ててもらえればと考えています。

診療科目：形成外科

カテゴリー：選択科目

一般目標：形成外科の基本的な手技を身につけるとともに、皮膚病変、腫瘍、外傷の診断と治療の実際を研修する。

指導原則・方法：

1. 入院患者の処置を行い、創部処理、創の治癒過程を学ぶ。
2. 外来診療にて、初診面接や処置を行う。
3. 手術の助手となり、形成外科の基本的な手技を身につける。
4. 勉強会、リハビリカンファレンスなどに参加する。

研修科目：皮膚科

カテゴリー：選択科目

一般目標：1. 皮膚科の診断・治療に関する基本的な知識と技術を短期間で効率よく確実に習得する。

2. 皮膚以外の臓器にも障害をきたす皮膚疾患を、皮疹からの確に診断し、適切な検査、治療が行えるようにする。

指導原則・方法：

1. 皮膚科病棟を担当し、その医療スタッフとして診療にあたる。
2. 指導医の外来に参加し、診療補助・検査補助を行う。

週間スケジュール：

曜日・時間	8：30～12：30		13：30～17：15
月	外来		検査、病棟
火	外来		検査、病棟
水	外来		検査、病棟
木	外来		手術、検査、病棟
金	外来		検査、病棟

研修責任者からのメッセージ：

- (1)皮膚症状を正確に記載するスキルを習得すること。
- (2)皮膚外用療法の基本を習得すること。
- (3)皮膚から全身疾患の存在を見いだすプロセスを習得すること。
- (4)患者とのコミュニケーションを得られるスキルを習得すること。
- (5)皮膚の基本構造と初歩的な皮膚病理学に触れること。

以上5点を到達目標としたい。

研修科目：泌尿器科

カテゴリー：必修科目・選択科目

一般目標：泌尿器科診療に必要な、診察、検査、治療法を習得する。

指導原則・方法：

1. 研修目標

泌尿器科領域の診療でプライマリーケアが適切に実施でき、かつ専門的治療の要否を判断するための知識と技術を習得する。

2. 研修内容

泌尿器科全般の研修をおこなう。

3. 一般目標

泌尿器科の基礎知識と関連項目を理解する。

泌尿器科疾患の診断と検査方法を理解し、その手技を習得する。

泌尿器科の治療と処置・手術を習得するとともに、泌尿器科の救急処置や術前術後の患者管理を学ぶ。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 または 診察補助	外来診療の 補助	外来診療の 補助	外来診療 または 診察補助	外来診療の 補助
		病棟業務	病棟業務		病棟業務
午後	手術 または 検査	手術 または 検査	手術 または 検査	手術 または 検査	手術 または 検査
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

診療科目：眼科

カテゴリー：選択科目

一般目標：眼科疾患全般に関して病態把握、診断、治療等に関する知識を習得し、眼科診療における適切な問診がおこなえ、眼科の細隙灯顕微鏡や眼底鏡、眼圧計を用いた一般的な診察技術を習得する。

指導原則・方法：

1. 指導医とともに入院患者を受け持ち、医療スタッフとして診療にあたる。
2. 指導医の外来に参加し、診療補助・検査補助を行う。
3. カンファレンスに参加する。
4. 眼科手術に同席し、各疾患、各手術方法の手術手順、手技を理解する。

週間スケジュール：

曜日・時間	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月	外来見学・診療					検査見学・実習				
火	外来見学・診療					手術見学・助手				
水	外来見学・診療					検査見学・実習				
木	外来見学・診療					手術見学・助手				
金	外来見学・診療					手術見学・助手				

研修責任者からのメッセージ：

眼科には眼及び眼周囲の症状を訴える患者さんが大勢来院されます。

忙しくても一人一人の声に耳を傾け、丁寧に診療を行って診断に至り、手術を含めた治療によって患者さんに喜んでもらえる過程を経験してもらえたらと思っています。

研修科目：耳鼻咽喉科

カテゴリ：選択科目

一般目標：耳鼻咽喉科・頭頸部領域の生理的な状態および疾患に対する理解を深め、診療に必要な基本的技能の習得を目標とする。

指導原則・方法：

1. 指導医とともに入院患者を受け持ち、医療スタッフとして診療にあたる。
2. 指導医の外来に参加し、診療補助・検査補助を行う。
3. 毎朝行われるクリニカルカンファレンスに参加する。

週間スケジュール：

曜日・時間	8：30	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月	カン フ ア レ ン ス	病棟もしくは外来					病棟もしくは外来			
火		病棟もしくは外来					手術			
水		病棟もしくは外来					手術			
木		病棟もしくは外来					各種検査			
金		病棟もしくは外来					病棟もしくは外来			

研修責任者からのメッセージ：

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域での初期研修を通して、当科での患者の診断と治療計画を立案できるようになることを期待する。そのためには、当領域の解剖学的特徴と生理学的機能を統合して、耳鼻咽喉科疾患を学んでほしい。

また、この機会に耳鼻咽喉科診療器具（額帯鏡や耳鏡、鼻鏡、ファイバースコープなど）を自由に使いこなせる技術も習得してほしい。

入院患者については、実際に助手として手術を体験し、術後のポイントについても学んでほしい。

研修科目：放射線科

カテゴリー：選択科目

一般目標：放射線医学に関する基礎的知識を習得するとともに、放射線科専門医として必要な知識、技術の修練を行う。当院は日本医学放射線学会に認定された放射線科修練施設であり、学会が認定する専門医の研修目標に準じて行う。

指導原則・方法：

1. 放射線科医として必要な知識と技術を習得する、
2. 研修内容
 - (1) 放射線診療に関する基礎的知識および技能の習得
 - (2) 画像検査とその読影の研修を行い、病変の指摘、鑑別診断の能力を身につける。
 - (3) 検査、治療に伴う放射線障害や副作用とその正当性を考慮して診療できる能力を身につける。
3. 目標
 - (1)放射線医学の基礎
放射線生物学、放射線物理学、読影法、放射線障害
 - (2)画像診断
呼吸器画像診断、肝、胆、膵をはじめとした消化器画像診断を中心に神経放射線、骨軟部領域、泌尿器科領域、小児、救急疾患などを対象として、単純X線写真、造影検査、超音波、CT、MRI、血管撮影などの画像診断技術を習得する。また、診断技術を応用したインターベンション治療についても専門的な知識を身につける。
 - (3)放射線治療
放射線腫瘍学に基づいて高エネルギー装置による放射線治療、立体照射の治療の実際を研修する。また外科治療、化学療法と放射線治療の併用、いわゆる集学的治療についても研修する。
4. 核医学
放射線医薬品の管理と安全取り扱い、核医学検査の診断と治療、甲状腺腫瘍の生検

週間スケジュール： その他CPCなど

曜日・時間	月	火	水	木	金
午前	外科術前カンファランス	外科術前カンファランス	外科術前カンファランス	外科術前カンファランス	外科術前カンファランス
	放射線治療	超音波検査	読影	核医学検査	超音波検査
午後	放射線治療	血管読影	読影	核医学検査	超音波検査

研修責任者からのメッセージ：

放射線科では全科にわたる患者さんの単純X線写真、超音波検査、CT、MRI、血管撮影、核医学による画像診断、IVR治療ならびに放射線治療を行っています。

研修にあたっては、それぞれの領域での研修を通して放射線診療の基本的な知識を身に付けてもらいたいと思います。

画像診断の読影のみならず、的確な画像診断の進め方も習得してください。

研修科目：病理診断科

カテゴリー：選択科目

一般目標：生検・手術材料の診断および剖検解剖のプロセスを理解し、病理診断書および剖検診断報告書の内容を適切に理解できる能力を身につけるとともに、限られた専門領域に関するの検体については病理診断ができる能力を習得するための研修を行う。

指導原則・方法：

1. ディスカッション顕微鏡で生検・手術症例カンファレンスを行う。
2. 手術材料の切出しを指導医の指導のもとで行う。
3. 生検・手術材料の診断書作成を指導医の指導のもとで行う。
4. 病理解剖を指導医の指導のもとで行う。
5. 剖検診断報告書の作成を指導医の指導のもとで行う。
6. 自分の行った剖検例に関してプレゼンテーションを作成し、CPCで提示する。
7. 細胞診診断を指導医の指導のもとで行う。

週間スケジュール：

曜日・時間	8：30～10：00	10：00～12：00	13：00～17：30	17：30～19：30
月	生検・手術症例 カンファレンス	手術材料 切出し	診断書作成 細胞診 プレゼンテーション作成	CPC (月1回)
火				
水				
木				
金				
病理解剖（随時）				

研修科目：緩和ケア内科

カテゴリー：選択科目

一般目標：緩和ケアの理念を理解し、実践のために必要な態度・技能・知識を習得する。

指導原則・方法：

- ・研修開始時に指導医からオリエンテーションを受け、研修目標の設定を行う。
- ・緩和ケア病棟において、担当医として入院患者を受け持ち、指導医の指導のもとでコミュニケーションや症状緩和の実際を学ぶ。
- ・一般病棟での緩和ケアチーム回診に参加し、緩和ケアチームカンファレンスで多職種と検討を行い、症状緩和のための治療計画を立案する。
- ・緩和ケア外来・緩和ケアチームの活動に加わり、治療中のがん患者も含めた幅広い緩和ケアの取り組みを学ぶ。
- ・患者・家族との緩和ケア病棟入棟面談や、入棟判定会議に参加する。
- ・臨終の立ち合いを経験し、死亡診断、死亡診断書の記載や遺族ケアを行う。

週間スケジュール：

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診 緩和ケア外来	病棟回診 緩和ケア外来	病棟回診 緩和ケア外来	病棟回診 緩和ケア外来 多職種カンファレンス	病棟回診
午後	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス

- 毎日の緩和ケア病棟回診に参加する。
- 毎週木曜日（10:30 - 11:00）の緩和ケア病棟多職種カンファレンスに参加する。
- 適時、緩和ケアチーム回診、緩和ケア外来に参加する。
- 適時、退院調整カンファレンスに参加する。

研修責任者からのメッセージ：

緩和ケアは複数の領域を横断するサブスペシャリティ領域です。患者の持つ苦痛の把握や、コミュニケーションスキル、他職種スタッフとのチーム医療など、今後、どの診療科でも役立つ知識と技術を学ぶことができます。

研修科目：地域医療

カテゴリ：必修科目

一般目標：地域住民が生涯にわたり住み慣れた地域で健やかに幸せに生活できるよう、
地域に根ざした医療のできる医師となるために、地域における医療（在宅医療を含む）
を実践する中で、地域の特性に即した医師の役割を理解し、地域医療の内容を学ぶ。

担当施設：協力型病院 南砺市民病院

協力型施設 高岡ふしき病院、高陵クリニック、もり内科クリニック、
南砺市民病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、飛騨市民病院

指導原則・方法：

1. 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解させ、実践させる。

※協力施設、協力病院での研修は各施設の予定に従う。

研修科目：保健・医療行政

カテゴリー：選択科目

一般目標：地域に根ざした医療のできる医師となるために、ヘルスプロモーションを基盤とした地域保健、健康増進活動、および、プライマリーケアからリハビリテーション、さらには福祉サービスに至る連続した包括的な保健医療を理解し、公衆衛生の重要性を実践の場で学び、地域保健行政における医師の役割を理解する。

担当科：保健・医療行政 検診部・地域医療部、高岡厚生センター

指導原則・方法：

1. 疾病の早期発見（二次予防；健康診断、人間ドック等）の意義を理解し実践する。
2. 地域の健康増進・疾病予防活動は病院で実践している禁煙指導や糖尿病教室、健康教室の運営に参画することで、その意義の理解に努める。
3. 病病連携、病診連携の意義を理解し、オープンベッド(開放型病床)について医師会との連携形態につき学習し、実際の診療場面に参加し、地域完結型を目指す医療のあり方を学ぶ。
4. 障害患者・高齢者への継続医療の必要性と対応を理解し行う。協力施設である各種福祉施設で体験する。加えて在宅医療に必要な知識、技術、態度を習得する。
5. 保健・福祉行政の意義を理解し連携できるように、協力施設である各施設での実体験を積む。
6. 地域リハビリテーション研修会に参加し、地域医療における連携の実際を体験する。

週間スケジュール：

曜日・時間	月	火	水	木	金	土
午前	人間ドック、健診	人間ドック	人間ドック、健診	人間ドック	人間ドック	健康教室
午後	両親学級		糖尿病教室			
	オープンベッド学習					
	訪問看護学習					
19時より			医師会症例検討会 (月1回)		院内CPC (月1回)	

※院内 地域医療部・健康相談室の予定

研修責任者からのメッセージ：

地域住民が生涯にわたり住み慣れた地域で健やかに幸せに生活できるように、地域における医療、保健、リハビリテーションや福祉などの地域医療連携を理解し実践するための知識、技術、態度を習得し、医療活動をおこなえる医師を目指してほしい。

4. 指導醫師一覽

4. 指導医師一覧

診療科名	職名	医師名
内科	主任部長(診療科長)	東 滋
	主任部長	篠田 晃一郎
	部長	寺村 千里
	医長	鈴木 一如
	医長	稲端 翔太
精神神経科	主任部長(診療科長)	橘 博之
	主任部長	平尾 直久
脳神経内科	主任部長(診療科長)	道具 伸浩
消化器内科	理事(経営戦略担当)・副院長	伊藤 博行
	担当局長	中谷 敦子
	主任部長(診療科長)	大澤 幸治
	主任部長	蓮本 祐史
小児科	主任部長(診療科長)	辻 春江
	主任部長	森腰 夏子
外科	病院長	福島 亘
	担当局長(診療科長)	堀川 直樹
	主任部長	今川 健久
	部長	宮永 章平
	部長	飯田 優理香
整形外科	医療局長	中野 正人
	主任部長	今西 理恵子
	医長	今井 達朗
形成外科	主任部長(診療科長)	榎本 仁
皮膚科	部長(診療科長)	森 直哉
泌尿器科	主任部長(診療科長)	林 典宏
産婦人科	主任部長(診療科長)	脇 博樹
	部長	牛島 倫世
眼科	主任部長(診療科長)	加藤 剛
リハビリテーション科	主任部長	今西 理恵子
耳鼻咽喉科	部長(診療科長)	北川 典子
放射線科	副院長	寺山 昇
	主任部長(診療科長)	小林 佳子
麻酔科	担当局長(診療科長)	瀧 康則
	部長	北林 亮子
病理診断科	主任部長(診療科長)	林 伸一
	主任部長	三輪 重治
緩和ケア内科	主任部長	磯部 博隆
	部長(診療科長)	中山 啓
検査科	医師	七澤 洋
検診部	医師	根上 利宏

協力病院及び協力施設	研修実施責任者	指導医数
金沢大学附属病院	吉崎 智一	196人
富山大学附属病院	林 篤志	151人
金沢医科大学病院	正木 康史	160人
厚生連高岡病院	寺田 光宏	52人
富山県立中央病院	音羽 勘一	103人
南砺市民病院	清水 幸裕	15人
公立宇出津病院	長谷川 啓	4人
市立輪島病院	品川 誠	7人
飛騨市民病院	黒木 嘉人	3人
医療法人社団高陵クリニック	遠山 龍彦	1人
JCHO 高岡ふしき病院	高嶋 修太郎	2人
富山県高岡厚生センター	松倉 知晴	1人
独立行政法人国立病院機構北陸病院	白石 潤	5人